

ポイント

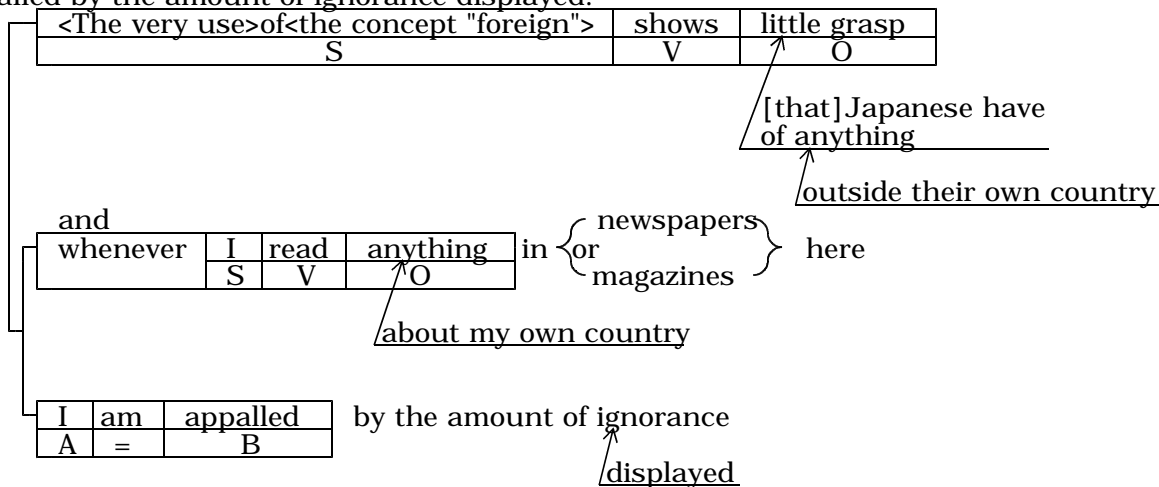
飾り(関係代名詞が導く形容詞節)の中で、先行詞に当たる名詞が消えることで、「動詞+前置詞」の形が現れることがある。最初の英文がそれで、「have of」の形が現れているのが分かる。

- The very use of the concept "foreign" shows **little grasp**. - 言いたい文
- The Japanese have **little grasp** of anything outside their own country. - 飾りの文
 - ・「外人」という言葉の意味の使い方だけでも、何も理解していないことが分かる。
 - ・日本人は自分たちの国以外のことに関して何も理解していないことが分かる。

ofは「関連のof」で aboutと同じ意味。だから「of anything outside their own country」で「自分たち自身の国以外のことに関して」が原義。だから、haveとは無関係で、little graspを飾る前置詞+名詞だね。でも、little graspが消えて無くなっているので、「have of」がまるで自分の知らない熟語のようになってくる。特に、「基本動詞+前置詞」は意味がたくさんあるので、自分が覚え残している熟語じゃないかと思ってしまう。でも「have of ~」なんか熟語でも何でもありませんよ！

見取図

(1)The very use of the concept "foreign" shows little grasp the Japanese have of anything outside their own country, and whenever I read anything in newspapers or magazines here I am appalled by the amount of ignorance displayed.

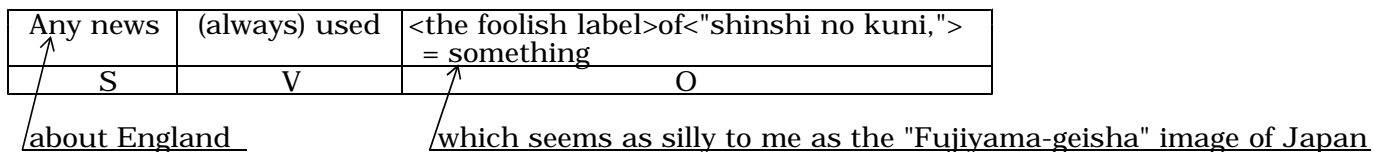


* concept = 言葉の意味内容。ここでは「外人」という言葉の意味
the very A = ここでは「まさしくA、まさにA」よりも「Aだけでも、Aでも」がぴったり。

* appall = 「愕然とさせる、ゾッとさせる」の「させる系」他動詞。

【全訳例】「外人」という言葉の意味の使い方だけでも、日本人が自分たちの国以外のことを何も理解していないことが分かる。そして、僕がこの新聞や雑誌で自分の国について書いてあるものを読むときはいつでも、それがどんなものでもその中で披露される無知の数々に愕然とする。

(2)Any news about England always uses the foolish label of "shinshi no kuni," something which seems as silly to me as the "Fujiyama-geisha" image of Japan.



* something which 文 = 「~のようなもの・こと」
・ something which you cannot change = 変えられないようなもの
・ something which has to do with someone's private life = 私生活に関すること

SVX, A = SはVするのだが、それはAである。コンマ(,)は同格。

* image of A = Aに対するイメージ、Aについて持っているイメージ

* label = 「ラベル」よりも「レッテル」が日本的。

【全訳例】どの記事も「紳士の国」などと言うバカなレッテルをいつも使っている。それは日本に対する「富士山芸者」のイメージと同じくらい僕にとってはバカげているように思われる。

(3)Not that it is something which annoys me, for I have understood that people are happy with these platitudes which save them the trouble of thinking about things in which they have no deep interest, but merely a vulgar curiosity.

[It	is not	that+文
A		B

<文>

it	is	something
A	=	B

which annoys me

for

I	have understood	that +文
S	V	O

<文>

people	are	happy
A	=	B

with these platitudes

which save them the trouble of thinking about things

in which they have no deep interest, but merely a vulgar curiosity

* I have understood that ~ = 「~は織り込み済みだ、想定範囲だ」と訳すとカッコ良い。
It is not that A = だからといってAというわけではない。これはいつでも使える簡単部分否定で not necessarily に等しい。ここでは It is が省略されている。

・ It is not that I hate him. 僕が彼のことを必ずしも嫌っているわけではない。

= I do not necessarily hate him.

* save A the trouble of doing = Aが~する手間を省く

* curiosity in A = Aに対する好奇心

* platitude = は「平凡な言葉」よりも「きまり文句」がぴったり。

【全訳例】だからといってそれが僕の気に障るようなことだというわけでもない。なぜなら、深い関心などまったくなく、単に低俗な好奇心しか持っていない様な事柄について自分たちが考える手間を省いてくれるこの種の「おきまり文句」があれば、人は満足なのだと言うことは、もう織り込み済みだからである。